

からだの仕組みに関する講演会

Dr. Daniel E, Lieberman



ハーバード大学・進化生物学科

主任・教授

<http://www.fas.harvard.edu/~skeleton/danlhome.html>

ヒトの進化と持久運動能力

日時：2010年1月7日（木）17：00～18：30

場所：神戸大学・発達科学部・大会議室

長時間の活動を可能にする持久的な運動能力の進化は、厳しい自然への環境適応能力と共にヒトが地球上に広く分布して生存する上で不可欠でした。特に、ヒトは直立二足歩行・走行による酸素消費機能の適応、弾性のあるアキレス腱や頑丈な股関節、さらに発汗による優れた体温調節能力によって「速いピッチでの長距離移動能力」を進化させたと言われています。最近、Lieberman 教授たち（2004）は、この様なヒトの全身持久性運動能力の進化が広い地域における栄養価の高い食物の獲得を可能にし、大きな脳が発達したという説を提唱しています。今回、ヒトの優れた持久能力の特性を進化との関係から概説していただきます。

どなたでも参加できます。

近藤徳彦（人間発達環境学研究科 kondo@kobe-u.ac.jp 内線 7816）